

平成 2 6 年 度 第 1 回

## 堺市屋外広告物審議会

日時 平成 2 6 年 8 月 2 0 日（水）  
午後 2 時 0 0 分

場所 堺市役所本館地下 1 階 大会議室

都市景観室

# 堺市屋外広告物審議会

日 時 平成26年8月20日（水）

午後2時00分

場 所 堺市役所本館地下1階大会議室

## ○出席委員（13名）

委 員 久 隆 浩

委 員 藤 田 香

委 員 亀 田 健 二

委 員 藤 本 英 子

委 員 横 山 葵

委 員 大 塚 通 夫

委 員 河 内 尚 子

委 員 川 邊 信 一

委 員 松 本 優

委 員 池 崎 守

委 員 藤 原 正 宏

委 員 高 木 佳保里

委 員 田 中 丈 悦

## ○欠席委員（1名）

委 員 堀 居 幸彦

## ○議 事

- ・現在の社会環境に応じた「わかりやすい基準」への見直し（報告事項）
- ・地域特性に応じた「屋外広告物の在り方」の検討（報告事項）

(午後 2 時 0 0 分開会)

○司会 (室谷) お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまより平成 26 年度第 1 回堺市屋外広告物審議会を開催いたします。

私は、本日の司会をさせていただきます都市景観室の室谷と申します。よろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、事務局よりお願いがございます。携帯電話をお持ちの方は電源をお切りいただくか、マナーモードにご設定いただくようお願いいたします。

本日は、委員の委嘱後初めての審議会でございます。新たに審議会にご出席いただいております委員の方もいらっしゃいますので、改めまして委員のご紹介をさせていただきます。

関西大学政策創造学部教授の亀田委員でございます。

○亀田委員 亀田でございます。よろしくお願いいたします。

○司会 (室谷) 近畿大学総合社会学部教授の久委員でございます。

○久委員 久でございます。よろしくお願いいたします。

○司会 (室谷) 有限会社エイライン代表の横山委員でございます。

○横山委員 横山です。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 (室谷) 関西電力電柱広告業組合副理事長の大塚委員でございます。

○大塚委員 大塚でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 (室谷) 大阪屋外広告美術協同組合事務局長の河内委員でございます。

○河内委員 初めまして、どうも河内と申します。よろしくお願いいたします。

○司会 (室谷) 関西ネオン工業協同組合理事の川邊委員でございます。

○川邊委員 川邊です。よろしくお願いいたします。

○司会 (室谷) 大阪広告美術協働組合理事長の松本委員でございます。

○松本委員 松本です。よろしくお願いいたします。

○司会 (室谷) 堺市自治連合協議会副会長の池崎委員でございます。

○池崎委員 池崎です。よろしくお願いいたします。

○司会 (室谷) 堺商工会議所常務理事事務局長の藤原委員でございます。

○藤原委員 藤原でございます。よろしくお願いいたします。

○司会 (室谷) 堺市議会議員の田中委員でございます。

○田中委員 田中です。よろしくお願いいたします。

○司会 (室谷) 堺市議会議員の高木委員でございます。

○高木委員 高木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会（室谷）           なお、堀居委員につきましては、本日、所用のためご欠席する旨のご連絡をいただいております。また、藤田委員、並びに藤本委員におかれましては、先ほどご連絡をいただきまして、少しおくれる旨のご連絡をいただいております。

また、本日ご出席いただいております委員は、定足数に達しておりますのでご報告申し上げます。

本審議会の会議は、公開することになっております。また、会議の記録のため、事務局で必要に応じ、写真撮影・録音等をいたしますのでよろしくお願いいたします。

次に、事務局を紹介いたします。

建築都市局長の島田でございます。

○建築都市局長（島田）           島田です。よろしくお願いいたします。

○司会（室谷）           都市計画部長の坂元でございます。

○都市計画部長（坂元）           坂元です。よろしくお願いいたします。

○司会（室谷）           都市景観室長の休場でございます。

○都市景観室長（休場）           休場です。よろしくお願いいたします。

○司会（室谷）           世界文化遺産推進室長の宮前でございます。

○世界文化遺産推進室長（宮前）           宮前です。よろしくお願いいたします。

○司会（室谷）           世界文化遺産推進室次長の勝真でございます。

○世界文化遺産推進室次長（勝真）           勝真です。よろしくお願いいたします。

○司会（室谷）           続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

次第、会場配席図、堺市屋外広告物審議会委員名簿、そして、資料番号、資料1、資料2、資料3－1、資料3－2、資料4でございます。あと、合わせて、参考資料として、参考資料1、参考資料2が添付されてございます。

以上です。資料の不足等ございませんでしょうか。

本日は、先ほども申し上げましたとおり、委員委嘱後初めての審議会でございますので、会長並びに副会長の選出をしていただきます。つきましては、慣例により、事務局から会長、副会長の選出のために座長を選出させていただきたいと思っております。

恐れ入りますが、横山委員に座長をお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

○横山座長           わかりました。

ただいま、ご指名をいただきました横山でございます。どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、会長、副会長の選出につきましてお諮りしたいと思います。

本件につきましては、堺市屋外広告物審議会規則第4条第1項により、委員の互選に

なることとなっております。

会長、副会長の選出について、どなたかご意見ございますでしょうか。

大塚委員、どうぞ。

○大塚委員            どうでしょう。引き続き会長は久委員様に、副会長は藤田委員様にお願いしてはいかがなものでございましょう。

○横山座長            ありがとうございます。ただいま、大塚委員から会長に久委員、副会長に藤田委員というご推薦がございました。ほかにご意見はございますでしょうか。

○池崎委員            意見で結構かと思います。

○横山座長            ありがとうございます。ほかにご意見がないようですので、それでは久委員に会長を、藤田委員に副会長をお願いすることといたします。

それでは、これをもちまして私に与えられました役割は終えましたので、以後の議事進行は会長にお願いしたいと思います。どうもありがとうございました。

○司会（室谷）       横山委員、どうもありがとうございます。

それでは会長、会議の進行のほう、よろしく願いいたします。

○久会長            それでは、ご推薦でございますので、藤田副会長とともに皆様のご協力をいただきながら進めてまいりたいと思います。

それでは、これから議事のほうを進めてまいりたいと思いますが、議事に入ります前に、本日の会議録の署名委員の指名をさせていただきたいと思います。

本日は、藤本委員と藤原委員にお願いできたらと思います。よろしくお願いします。

それでは、本日の案件に入りたいと思いますが、本日はいずれも報告事項でございますが、まずは一括して事務局のほうから説明をいただければと思います。よろしくをお願いします。

○都市景観室主査（出井）       都市景観室の出井といいます。よろしくお願いします。

着座にて説明させていただきます。

本日は、昨年５月に開催しました審議会より時間が経過していることなどから、まず、簡単に前回の審議会の振り返りから進めたいと考えております。

それでは、「現在の社会環境に応じたわかりやすい基準への見直し」、沿道禁止区域、許可基準等に関する見直しについてご説明します。前回の報告事項でございます。

お手元の資料１並びに前のスクリーンをご覧ください。

本市では、平成８年４月の中核市移行に伴い、堺市屋外広告物条例を施行し、これまで許可制度を実施してまいりました。その間、景観に対する社会的関心の高まりの中、平成１７年６月に景観法が全面施行され、また、社会環境の変化として、バス停留所、

上屋添加型広告物を初め、さまざまな広告物が普及し始めるなど、その多様化が進んでおります。

このような中、屋外広告物について、現在の社会環境や平成23年6月に策定した堺市景観計画なども踏まえた見直しの必要性も生じていることから、社会環境に応じたわかりやすい基準づくりと地域特性に応じた基準づくりについて、検討を進めているところです。

まず、社会環境に応じたわかりやすい基準づくりとして、指定道路に接続する禁止区域、いわゆる沿道禁止区域に関する見直しについてご説明します。

野立て広告などの非自家用広告物を制限する沿道禁止区域は、現状、左の図のように黄色の禁止区域幅が不均一で虫食い状態になっています。そのため、土地利用や市街化の状況を踏まえた指定路線の見直しとして、右の図のとおり市街化の進む府道大阪中央環状線、国道26号の平面区間について、指定道路から解除します。また、指定道路からの視認性を踏まえ、原則、禁止区域の範囲を道路端より両側100メートル幅に統一。図でお示しすると、中央の指定道路に対し、両側100メートルの範囲を禁止区域とするものです。

次に、許可区域等に関する見直しです。

用途地域など土地利用の状況に応じ、4種の許可区域を設定します。許可区域の区分については、「住居系用途地域及び南部丘陵を除く市街化調整区域」を第1種、「商業系及び臨海部の工業専用地域を除く工業系用途地域」を第2種、「臨海部の工業専用地域」を第3種、「南部丘陵」を第4種許可区域に区分します。

それぞれの土地利用に応じた許可基準につきましては、資料1の裏面2ページに記載しておりますが、見直しの考え方としましては、用途地域などを踏まえた許可区域及び許可基準を設定することにより、土地利用に応じた制限とする。自然豊かな南部丘陵周辺地域における制限を強化し、丘陵景観の保全を図るとしております。

次に、個別基準に係る見直しです。

歩車道のバリアフリー化が進む中、バス停留所の広告表示の高さについて、現行基準に即さない状況の発生や、平成20年3月の国土交通省からの道路占用の取り扱いについて、一定の緩和が示されるなど、実態との乖離の解消や、全国的な趨勢を踏まえ、基準の見直しや新たに個別基準を設定するものです。

まず、バス停広告についてですが、広告物の縦の長さを0.45メートルから0.6メートル以内に。また、地上から最下端までの距離の基準を廃止します。

次に、バス停留所上屋への広告物添加についてです。許可基準としましては、添加広

告物は、上屋の幅及び高さの範囲内とする。表示面積は、1面につき2平米以下とするなどとしております。

続いて、消火栓標識を利用する広告の個別基準についてです。

許可基準としましては、表示面が縦0.4メートル以内、横0.8メートル以内。地上から広告物の最下端までの距離について、歩道にあっては2.5メートル以上、車道にあっては4.5メートル以上、禁止区域の適用は除外する。

以上が、前回の審議会でご報告した内容でございます。

次に、お手元の資料2、前のスクリーンをご覧ください。

許可基準等（個別基準等）に関する整理・見直しについてです。

突き出して取り付ける電柱広告について、現在の運用状況を踏まえ、基準を見直していきたいと考えています。縦2メートル以内を1.2メートル以内に、横0.5メートル以内を0.45メートル以内に。地上から最下端までの距離について、歩道上の場合にあっては2.5メートル以上としております。

次に、巻き付け広告について、全国的に掲出位置を下げる基準に見直しを図り、柔軟な運用を進めていくことから、本市においても地上から最下端までの距離を1.9メートル以上から1.2メートル以上に見直したいと考えています。

また、交通管理者との協議に応じて柔軟に取り扱うことができるよう、「新設または既設の道路標識の効用を妨げないものである場合は、この限りでない」とただし書きを追加するものです。

次に、公共的取り組み等に寄与する広告物です。

地域における公共的な取り組みへの費用充当を目的とする広告物として、右に示す参考事例のようなバナー広告が挙げられます。現状では、協賛者名などは非自家用広告物として取り扱うことから、禁止区域内や街灯などの禁止物件には掲出できません。

しかし、平成20年3月の国土交通省からの通知等を踏まえ、まちの活性化やにぎわいの創出などにつながる場合について、禁止区域及び禁止物件などの適用除外規定を新たに設け、公共的なイベントのスポンサー付バナー広告が掲出できるよう見直していきたいと考えております。

掲出要件としましては、広告料を公共的取り組みに係る費用へ充当する旨を記載し、周辺の景観に調和した色彩、デザイン等に配慮する。また、賛助会員などのスポンサー表示の面積は、全体の表示面積の4分の1以内、かつ0.5平米以内、地上から最下端までの距離は、歩道上にあっては2.5メートル以上、突き出し幅は0.8メートル以下とします。なお、掲出の対象者としてしましては、公共団体、自治会、商店街振興組合、

NPO法人など。対象地は、道路または当該道路に接続する公共団体の所有地及び管理地とし、市長との協議が整ったものとします。

次に、その他、申請手続等についてご説明します。

まず、大規模広告物の取り扱いについてです。現状では、旧景観条例に基づき、広告物の表示面積の合計が40平米を超える場合などの対象規模の広告物について、大規模広告物の掲出の届け出を行い、必要に応じて意匠などの改善に向け、助言、指導を実施しております。

見直し内容としましては、旧景観条例に基づく手続を屋外広告物条例に基づく規定とし、大規模屋外広告物に係る事前協議を行っていきたいと考えております。また、配慮事項として、新たに「広告物は掲出位置やデザイン、色使い等に統一感を図るよう配慮する」、「できる限り、隣接道路沿道への掲出は控えるとともに、必要最小限の掲出に心がける」といった項目を追加したいと考えております。

次に、更新許可申請書の添付図書の変更です。

現行手続における課題としましては、変更申請を行う際に必要な添付図書が用意できないケースが発生しております。このような、この大きな原因としては、新規申請時に用意した関係図書について、更新を重ねている間に申請者側で紛失するなど、関係する構造図等を保管していないことがあげられます。

その見直し案としまして、3年に1回の更新申請時の添付図書を新規申請時の添付図書と同様にしたいと考えております。これにより、許可通知書に申請書類の副本が添付されていることから、必要図書の紛失が減少するほか、定期的に全体の掲出状況が把握でき、管理の向上につながり、また、申請手続の効率化が図られることとなります。

今回の許可基準等の見直しに伴う様式の変更や、条例等の文言の整理、また、既存不適格に対する経過措置について見直し等を行うものです。

次に、堺市景観計画において、「重点的に景観形成を図る地域」として位置付けられている百舌鳥古墳群周辺地域について、緩衝地帯の保全に関し、推進本部会議で決定した制限の方針とその説明会について、世界文化遺産推進室よりご報告させていただきます。

○世界文化遺産推進室次長（勝真）                      世界文化遺産推進室の勝真でございます。よろしく願いいたします。

着座にてご説明させていただきます。

それでは、「百舌鳥古墳群の緩衝地帯の保全について」ご説明いたします。

資料は、資料3-1及びパンフレットでございます。スクリーンをご参照ください。



世界遺産の登録の目的は、地球上の貴重な遺産を守り、次世代に継承する。日本が世界に誇るべき貴重な歴史遺産を人類の宝として、後世まで末永く守り伝えるということでございます。

古墳は国内に約20万基あると言われておりますが、中でも百舌鳥・古市古墳群については、巨大な前方後円墳が群をなしていることに価値があることから、世界文化遺産登録を目指しているものです。

世界文化遺産登録の取り組みの経緯についてですが、平成22年11月に百舌鳥・古市古墳群がユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載されました。これを受け、平成23年5月には、大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市で「百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議」を設置し、4者が一体となって取り組みを進めてきました。

平成26年3月には、推進本部会議において行政・地域住民・民間事業者等が共通の目標を見据えてまちづくりに取り組んでいくため、「地域活性化ビジョン」を策定し、4月14日に緩衝地帯の範囲と制限の方針を決定したところです。また、これを受け、5月から6月にかけて世界文化遺産登録に向け、緩衝地帯の保全に関する説明会を実施してまいりました。

百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録の目標についてですが、登録の推薦枠は近年、暫定一覧表リストから1年につき1件に限られております。平成24年には「富岡製紙場と絹産業遺産群」、平成25年は「九州・山口の近代化産業遺産群」、平成26年は「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が国内推薦に選ばれており、百舌鳥・古市古墳群は、平成27年の国内推薦、平成29年の登録を目指しています。

次に、「地域活性化ビジョン」を受けた「古墳群を活用したまちづくり」についてご説明します。

目的と効果については、歴史と文化を活かしたまちづくりの推進や、百舌鳥・古市古墳群の保護と次世代への継承を図ることにより、豊かな歴史文化資源を活かした都市魅力の向上や、市民の誇りと郷土への愛着心の醸成につなげていくこととしております。その取り組み内容として、3つの基本方針を掲げています。

1つ目は、「緑や水の潤いのあるまちの形成」であり、古墳周辺の景観への配慮や、古墳と調和したまちなみへの誘導といった「緩衝地帯の保全」のほか、古墳の確実な保存・管理などの取り組みがあります。

2つ目は、「快適で人に優しいまちづくりの推進」であり、ガイダンス施設、鉄道駅周辺や道路の整備などの取り組みがあります。

3つ目は、「新たな魅力とにぎわいの創出」であり、市内のほかの歴史文化資源との

連携などの取り組みがあります。

それでは、基本方針1のうち、緩衝地帯の保全についてご説明します。

緩衝地帯とは、世界遺産に登録される資産の景観や環境を保全するために、資産の周囲に設定される区域です。その範囲は、道路や鉄道、河川等の地形地物や土地利用形態の境界を基本とし、反正天皇陵、仁徳天皇陵、履中天皇陵、御廟山、いたすけ、ニサンザイといった6つの巨大前方後円墳を取り囲む赤い破線で示した部分が緩衝地帯の範囲であり、制限内容の方針とともに、4月14日の推進本部会議において決定されたものです。

次に、緩衝地帯の取り組みですが、これまで仁徳天皇陵古墳などの古墳の周囲については、風致地区や第一種低層住居専用地域に指定し、緑豊かで良好な都市環境と、ゆとりと潤いのある住宅地環境を形成してきたところですが、世界文化遺産登録を目指すにあたり、古墳群と調和したまちなみの形成に向け、建築物等の景観形成として、高層建築物や派手な色彩の建築物、巨大な屋外広告物といった建築物の高さ・形態意匠、屋外広告物の大きさ等について制限が必要となっています。

○都市景観室主査（出井）      それでは、緩衝地帯における制限内容について具体には、建築物の高さ、形態意匠、屋外広告物の大きさ等の制限についてご説明いたします。なお、建築物の高さ、形態意匠につきましては、参考としてご報告させていただきます。

緩衝地帯の範囲については、先ほどの説明のとおり、赤色の破線で示す範囲としております。そのうち、仁徳天皇陵古墳など6つの巨大前方後円墳に隣接する区域は、都市計画で定める第一種低層住居専用地域、もしくは風致地区に指定されている青色の点線の区域であり、「資産近傍」としております。また、そのほかの区域については、「資産近傍以外の地域」としております。

次に、それぞれの区域における制限の内容についてご説明します。

まず、建築物の高さの制限の考え方についてですが、「資産近傍」においては、既に高さ制限がかかっており、第一種低層住居専用地域で高さ10メートル以下、風致地区では高さ15メートル以下であり、今後もこの制限を維持してまいります。

次に、「資産近傍以外の地域」においては、突出した高さの建築物の抑制や、巨大前方後円墳の周辺からの眺望を考慮し、新たな制限として、第一種低層住居専用地域を除く住居系用途地域と近隣商業地域において高さ31メートル以下、三国ヶ丘駅周辺に指定されている商業地域において、高さ45メートル以下としていく考えでございます。なお、既に建っている建築物で、新たな高さ制限に適合しない建築物、いわゆる「既存不適格建築物」につきましては、一定の条件のもと、最初の1回に限り建て替えを可能

としたいと考えております。

次に、建築物の色彩などの形態意匠の考え方についてですが、まず、対象とする建築物を高さなどにより、大・中・小規模の3つに区分します。「資産近傍」については、古墳に隣接する地域であることから、大・中・小規模、全ての建築物について外壁の色彩基準等を設定することと考えております。なお、大規模建築物については、既に景観条例で制限がかかっているため、中規模及び小規模建築物について、新たな制限を加えることとなります。

次に、「資産近傍以外の地域」についてですが、大規模建築物については、同じく既に景観条例で制限がかかっているため、中規模建築物について、新たな制限を加えることとなります。

次に、色彩基準についてですが、色彩は、赤・黄・緑・青・紫といった色の様相である「色相」、この色相ごとに色の明るさを示す「明度」、色の鮮やかさを示す「彩度」で表しています。なお、明度、彩度ともに数字が大きくなるほど明るく、鮮やかになります。

具体的な色彩基準については、建築物の規模に応じて設定することとし、大規模建築物については、既存の制限を維持します。新たな制限を加えることとなる中規模及び小規模建築物については、外壁のベースカラーとして使用できる色は、鮮やかで目立つ色を制限するという観点から、表のとおりとしております。例えば、橙色系では、彩度6以下としており、使用面積が大きいベースカラーに使用できる色は、右の図の赤枠で囲った範囲となります。このほか、赤や黄色、青などの色相に応じた色彩基準は、資料3-1、2ページのとおりでございます。

次に、本審議会での案件となります屋外広告物の制限についてご説明いたします。

屋外広告物については、広範囲からの視認を目的とする広告物の抑制と、市街地景観を考慮する観点から、「屋上広告物」及び「高い自立広告物」を禁止、秩序ある掲出に向け、大きさや掲出件数を制限、住居系用途地域と商業系用途地域に区分して許可基準を設定、野立広告をはじめとする「非自家用広告物」を禁止することと考えています。

資産近傍である第一種低層住居専用地域及び風致地区については、既に屋外広告物条例において禁止区域となっており、原則として屋外広告物は掲出できません。

次に、資産近傍以外の地域については、赤で示す反正天皇陵古墳の南側の第一種低層住居専用地域については、資産近傍と同じく、現状どおり禁止区域として取り扱います。そのほかの地域は、ピンクで示す商業系用途地域と緑で示す住居系用途地域に分けて許可基準を設けます。

住居系用途地域では、屋上広告は掲出禁止、自立広告については、高さ 6 メートル以下、1 表示面につき 5 平米以内かつ総面積 10 平米以内、これを 2 物件まで。壁面に設置する広告物は、高さ 6 メートル以下、表示面積の合計は 10 平米以内かつ取付壁面の 3 分の 1 以内の面積としております。

次に、商業系用途地域についての制限内容です。屋上広告は同じく禁止とし、自立広告については、高さ 10 メートル以下、1 表示面につき 10 平米以内かつ総面積 20 平米以内、これを 2 物件以内。壁面広告については、従来どおり取付壁面の 3 分の 1 以内の面積としております。

以上が世界文化遺産登録に向けて必要な制限内容となり、この内容について地元説明会を行いましたので、その結果をご説明いたします。

○世界文化遺産推進室次長（勝真） 「百舌鳥古墳群緩衝地帯の保全に関する説明会の概要について」 ご報告します。

お手元の資料は、資料 3－2 でございます。

まず、全市を対象とした説明会は、5 月 24 日から 6 月 1 日まで計 4 回実施し、参加者は合計 94 名でございました。

次に、小学校区を対象に、6 月 18 日から 27 日まで関係する 9 つの小学校において計 8 回説明会を実施し、参加者は合計 153 人でございました。

説明会における主な意見や質問としては、世界文化遺産登録に関するものとして、世界文化遺産登録後の来訪者への対策が必要。世界文化遺産登録に向け、我々ももっと協力していきたい。世界文化遺産登録の取り組みや価値の PR がもっと必要。古墳の形状を見ることができるようにしてほしい。濠の水質の改善や古墳を含めた周辺のごみ対策など、もっときれいにすることも重要。世界文化遺産として守っていくには、子供たちの教育が大切。といった意見がございました。

また、世界文化遺産登録のメリット、デメリットについての質問があり、これに対しましては、メリットは、世界文化遺産のあるまちとして、市民の誇りにつながる。デメリットは、来訪者の増加に対する騒音やごみ等の問題が事例として挙げられると回答しております。

また、今回の制限にあわせた立ち退きについての質問があり、今回の制限は建築物の高さや形態意匠であることから、制限に伴った立ち退きの必要はありませんなどと回答しております。

次に、屋外広告物の制限内容に関するものとして、緩衝地帯の範囲設定により、通りの反対側が異なることについての質問があり、これに対しては、わかりやすい線として、

原則、地形地物である道路、鉄道の中心線等で緩衝地帯の範囲を設定している。また、緩衝地帯の範囲外につきましても、景観への配慮が広がることを期待したいと回答し、このほか、既存不適格の経過措置についての質問があり、これに対しては、既存不適格広告物について、一定の経過措置期間は設けていきたいと回答しております。

このように今回、説明会を行った印象としては、制限内容に関する反対意見はほとんどなく、また、世界文化遺産登録に向けて、住民の皆様も協力していきたいといった前向きな意見がありました。

以上が、百舌鳥古墳群の世界文化遺産登録に向けた緩衝地帯の制限と説明会に関する内容でございます。

○都市景観室主査（出井） 次に、広告物誘導地区指定制度についてご説明いたします。

お手元の資料では、資料４になります。

一定の区域における地域固有の許可基準を設け、屋外広告物の誘導を図る仕組みとして、「広告物誘導地区指定制度」を設けていきたいと考えています。

この制度の概要としましては、地域特性に応じた「良好な景観の保全」や「風格のある街並みの形成」または、「活力に満ちたにぎわいの創出」のために必要があると認められる区域を指定し、当該地区の固有の許可基準を設けることにより、屋外広告物の誘導を図っていきたいと考えております。

さらには、先ほどご説明しました「百舌鳥古墳群緩衝地帯」について、「良好な景観の保全」が必要と認められる区域でありますことから、「広告物誘導地区」の第１号として指定していきたいと考えております。

次に、百舌鳥古墳群緩衝地帯における経過措置についてご説明します。

広告物誘導地区の許可基準の適用により、既存不適格となる広告物については、早期の新基準への適合に向け、周知、誘導及び指導を行うとともに、一定の経過措置を設ける必要があると考えております。

その経過措置内容としましては、既存不適格となる広告物については、改正条例の施行後３年間は更新可能。上記更新期間内に改修計画が提出され、改修内容が相当と認められる場合にあっては、引き続き更新可能とする措置を考えております。

最後に、今後の予定についてご説明します。

お手元の資料では、参考資料２になります。

本日、８月２０日の審議会の後、１１月ごろに本審議会を開催し、地元説明会の資料等について、事前にご報告したいと考えております。その後、地元説明会や屋外広告業

団体への周知、改正屋外広告物条例の素案に対するパブリックコメントの実施を経て、本審議会における諮問・答申、さらには、堺市議会へ上程し、目標として平成28年1月の条例施行を目指していきたいと考えております。

説明は以上でございます。

○久会長            ありがとうございました。少しずつ内容は違いますが、全体像をまず、把握をしていただくということもあって、説明は一括して、させていただきました。

それでは、ただいまより意見交換、質疑応答をさせていただきたいと思っておりますけれども、少しずつ内容が違いますので、ちょうど資料ごとに内容が分かれておりますので、資料ごとにご意見を賜ればと思っております。

それでは、まず資料の1の部分でございますけれども、これは前回の報告も兼ねてということでございましたけれども、沿道禁止区域、許可基準等についての区域等の見直し、さらにはそれに付随した基準の見直しということでございますが、資料1に関しまして、何かご質問、ご意見ございますでしょうか。

よろしゅうございますか。これは前回の続きということになりますので、前回も少し意見等を賜ったところでございます。

それでは、続きまして資料の2でございます。これは、今日初めてご覧いただくということになると思っておりますけれども、また、ご意見を賜りながら、最終の諮問答申のときに、案としては反映させていただくということになると思っております。個別基準の内容でございます。あるいは届け出の添付書類を付けてくださいというような変更もございますが、資料の2に関しまして何かご質問とかご意見、ございますでしょうか。

はい、どうぞ。

○田中委員            事務局のほうに質問ということになりますけれども、この屋外広告物の状況につきまして、景観の観点等から議会のほうでも何回か議論させていただいたことがあるんですけども、現行の地域における違反広告物の件数、それと、この間こういった是正が年何件ぐらいされてきたのか、こういった手法で是正を行われてきたのかという現状についての取組みが1点です。

2点目は、今回の申請手続で出てます大規模広告物の取り扱い、これ確かスライドのほうでは3年に1回というようなのが少し出てたかというふうに思うんですけども、これによりまして、現状の違反広告物等への規制というのが可能になるのかどうかと、それについてお伺いしたいと思います。

○久会長            いかがでございましょうか。

○都市景観室長（休場）            都市景観室の休場と申します。

まず、違反広告物の状況とどういった是正がなされているかということについてですが、今回この見直しに当たりまして、先ほどの指定道路の9路線沿道で屋外広告物の調査をしてございます。その中で、屋外広告物の件数としては、約3,000件ございまして、そのうち許可取得の割合が、約14%と把握してございます。でございますので、そのほかの86%につきましては、その中で許可を要しないものも含まれるというふうに考えてございます。

それと、既存の状況等を加味しますと、大半が手続違反であろうというふうに考えてございます。これまでいろいろ周知啓発、さまざまな関係機関等の協力を得ながら、違反に対しては対策を講じてまいりましたけれども、具体的に何件というところはなかなかはかり知れないところがございしますが、今の効果で言いますと、やはり企業さんのコンプライアンスの広がり等で、いろいろな問い合わせが増えてきているというところと、やはりその許可申請の件数が年々増えてきているというところで、一定そういった周知啓発、指導という効果があるのかなというふうに考えてございます。

○久会長 恐らく、田中委員のご質問の趣旨は、そういう違反がわかっているわけですから、指導とか一番きついのは除却命令ということになると思うんですけども、そのようなアクションを事務局がやったのかどうかということだと思えます。

○都市景観室長（休場） 基本的には、やはりこういった屋外広告物の手続について知らない方も多いうふうに理解してございまして、まずは、やはりそういった手続が要るよと、基準があるよということを周知啓発というところに力を入れてきたというところでございます。

今後については、今回こういった形で許可基準の見直しということを行いますので、これを機にそういった啓発というのは、より一層進めていきたいなというふうに考えてございます。

○久会長 それともう一つ、3年に一度、今もやってらっしゃいますけれども、今回手続を変えることによって、そのあたりの指導等がやりやすくなるのかどうかという点はいかがでしょう。

○都市景観室長（休場） 今回改めて、新たな基準も含めて啓発周知していくということでございますので、当然、その引き続きで3年の更新時期についても、指導、誘導というのはやりやすくなっていくのかなというふうに考えてございます。

○久会長 という回答でございました。いかがでしょう。

○田中委員 別に、要するに経過をあえて取り上げるというつもりはないんですけども、従来も違反広告物があるということは行政当局も承知をされてきている経過がござ

います。これは具体的に、こういった手法で今まで実際に何件の是正などが行われたのか。あるいは是正が行われてなければ、なぜ是正が行われないのかと。あるいは是正の指導が行われたら、であればこういった指導の仕方によってそれができたのかと。その中には教訓が私は出てくるのだろうというふうに思っておるんです。そういった教訓を導き出されたのかどうか。困難な部分であれば、課題が導かれたのかどうかということを含めまして、もう少し件数も含めて、つまびらかに明らかにしていただきたいと思います。

○久会長           はい、どうぞ。

○都市景観室長（休場）           すみません。先ほども申しましたように、かなり屋外広告物というのは数が多ございます。その中でやはりいろいろ道路に支障があるとか、通報などの機会に当然是正に行くといったことと、先ほども言いましたように関係団体も含めて、こういった手続違反については周知徹底を図っていきたいという中で、具体的な件数まではつかめてませんけれども、やはりそういった問い合わせが多いとか、許可件数が増えてきているというところで、より一層やはりそういったところに力を入れていくという必要性は感じているというところでございます。

○田中委員           是正指導は何でされたんです。

○都市景観室長（休場）           実際、問い合わせ等でいろいろと現場に行って、是正指導ということを行っておりますので、明確には何件というところはつかめてませんけれども、そういったものに基づいて、現場に行って現況を確認し、その場で是正するというような行為を行っております。

○都市計画部長（坂元）           都市計画部長坂元でございます。

全市的にもやはり紙やたて看板、こういった路上の違反、簡易な広告物については、土木部とも連携のもとに、活動員制度によるボランティア等によって協力を得ながらおこなっております。また、関係団体の機関誌等に、啓発記事を掲載いただいて、意識醸成、啓発活動を行っております。

特に9月につきましては、屋外広告物適正化旬間ということで、パトロールを実施し、そういった広告物の違反指導を徹底するという活動をおこないます。また、屋外広告物の適性化に向けたチラシも作成した中で、広告物の業界団体等につきましても協力を得ながら、啓発に取り組んでおります。件数は今、室長が申したとおりですが、通報などの機会を通じて指導を実施しているというのが現状でございます。

以上です。



○久会長        9月は来月ですので、その強化旬間の間にどれぐらいの件数を指導したのか、その結果どうなったのかというのは、もう少し具体的に教えていただけると、先ほどのようなご質問はさらに一歩二歩前に進むかなというように思いますが、いかがでしょうか。

○都市景観室長（休場）        引き続き、9月の強化旬間についても、いろいろと周知徹底指導ということをやってまいりますので、今、会長がお示しのとおり、その辺は定かにしていきたいと思っております。

○久会長        それと、最後の案件になりますけれども、そういう延長上としてやっぱり地区を絞って徹底的によくしていくということにつながっていくのかなというふうに思いますので、全市的というのはかなり件数も多くて、なかなかきちんとやっていくというのはかなり労力のかかる話ですので、もう少しモデル地区的なところで頑張っていたければなというふうに思います。

      ここでも、今までもご紹介したことがあると思いますけれども、もう20年ほど前になりますけれども、熊本県が県の基準を見直すときに、徹底的な行政代執行をしまして、違反広告物を全て指導したと。その中で、今の基準の中でもこういう問題があるよということをスクリーニングした後、基準を変えていったというような経過がございます。これはもう本当に人海戦術で、かなりの労力をかけながらやったというようにお聞きしておりますので、徹底的にそこまでやるかどうかということも含めてまた、考えないといけないと思いますけれども、私は個人的には先ほど言いましたように、まずはその地区を指定して、しっかりとやっていくというようなところからスタートするというのが一番やりやすい方法ではないのかなと思います。

      どうぞ。

○池崎委員        自治会のほうでは迷惑な広告物をどの範囲でというのは難しいんですけれども、みんなが基本的にこれは迷惑だなというのは、みんなで集まって実は取っているんです。うちの地区は、ことは8月24日に500名ぐらいで地域の掃除と一緒にあって、そういう迷惑のはり紙等を取ります。恐らく、先ほど言われた話もきっと行政と住民と協力することによって、一つの何か新しい動きが出てくるのではないかなというふうに思いますので、ぜひまた、自治会のほうもそういった観点では、できる範囲で協力させてもらいながら一緒に取り組んでいきたいなというふうに思ってます。

      それともう1点、すみません、公共的取り組みに寄与する広告物というのがありまして、この電柱によく、例えば私ら子供の通学路の安全のために、ここは通学路というのをみんなで点検しながら、行政と一緒にあって掲出していただいたり、例えばここは飛び出し注意、危ないですよとか、いろいろ電柱を利用させてもらった注意喚起、啓発と

いうのはたくさんさせていただくんですけども、私もたまたま防犯の会長をやってまして気になるのが、決してそれが悪いということではなくて、私のところの地域でやっているのが、例えばひったくり注意というのがあまりまちの景観にそぐわない場合、そういったものはよくないなと思ったりするんです。だから、そのあたりも今後とも行政、あるいは、そういう機関と私ら住民としっかり連携を持った中で、せっかく私はこういう会があるというのを初めてここに参加させてもらって思うんですけども、地域の景観というのは、町の何て言うんですか、人の温かさというんですか、人の生きがい、住みやすさというのに大きくつながる一つのファクターを持っていると思うので、ぜひこういった内容をうまく地元住民なんかに発信しながらやっていきたいなと。反省も込めて一つの意見として今日は言わせていただきます。

以上です。

○久会長            どうもありがとうございます。

実は、資料2のちょうど中段にあります、公共的取り組み等に寄与する広告をですけれども、先ほど池崎委員のほうからありましたような、自治会とか防犯協会等でさまざまな啓発事業をやられてきたわけですけども、今までは自らが費用を使いながらやってきたわけですね。今回は、これを広告付きにできるということになりますので、それをうまく活用していただきますと、費用に充填できるというような内容でございますので、ここは対象者として自治会も名前に上がっておりますので、これをうまく活用していただいて、うまく費用もスポンサーが出していただけるような、そんな取り組みを進めていただければありがたいなというふうに思います。

○池崎委員            ありがとうございます。

○久会長            どうぞ。

○横山委員            資料2と先ほどの流れの話の中で2つ提案があるんですけど、先ほど事務局のほうから説明されている流れの中で、関係機関には徹底して周知しているというお話が何度か出てきたかと思います。さらに、この先ほどご説明いただきました資料の中にも最後の世界遺産の手続に関して、最終的にはその関係団体に周知していくというような、そういうお話が再三出てきたかと思うんですが、昨年のこの審議会に出てきた話として、実はその屋外広告登録している屋外広告物の業者さんは、ちゃんと守ってるんですけど、実は屋外広告物ってその業者さんが必ずしもつけてないんですというお話があって、例えば考えられるのはどうなんですか、建築屋さんですか、普通の一般広告屋さんとか、どうなんですか。業界さん、どこが勝手にというか広告の看板をつけたりされるんですかね。

○川邊委員       そうですね、やっぱり工務店さんとか建築屋さんとかがやっぱり頼まれて、それでそういう条例も何も知らずにやられてるというのが多いですね。でも今おっしゃったように、我々団体のほうではそういうことは周知しているんですけど、それでも承知してない方がやられているというのがやっぱり多いと思います。

○横山委員       そうなると、周知するところというのは、例えば建築の届け出をされるときに必ず屋外広告物はこうなって、この基準を守ってくださいねという、建築屋さんにもまずお伝えするとか、地域の建築業者さんが堺市に出入りしている建築業者さん、設計事務所さんに対しても実はこうなんですよ堺はというようなことをきちっとその関係する、つける可能性のあるところも一応、連絡しておく必要はあるのかなというふうに思ってて。でも、そこでややこしいのは、本来屋外広告物というのは、こういう指定された業者さんがきちっとした基準をもとにつけるのが正しいんだけど、そう完全になってないところをどうするのかと、考えなあかんところはあるんですけども、周知するとか、改善していくにはそういうところにもきちっと通達する必要性というのは高いんじゃないかなというふうに一つは思っています。

○川邊委員       そういったふうにそっちのほうから、工務店さんとかというふうな方向もあるんですけど、さっきおっしゃったようにやっぱりその取り締まりをして、看板を上げているオーナーさんのほうに周知させるには、やっぱり取り締まりというのをもうちょっと強化するほうが早い道かなというのは感じますけど。

○松本委員       いいですか、今の件なんですけど、堺市だけじゃないんですけど、自分たち業界からの話なんですけども、私のところも更新の手續の件で、広告主さんから問い合わせがあるんです。何かといいますと、こんな来たけどどうするのという話があるんです。それは、3年に一度来るので更新の手續してくださいねと言うて、こんなあるのかと言うわけですよ。それは誰がするねんって、自分たちが資格を持っているのでやらせていただくんですけども、大概そうやってわかってない広告主さんが多いです。それは一旦は広告を出して後の話なんですけど、その以前の計画のときありますよね、新規のとき。このときも、この計画に関しましては、条例的にこれが違反しているので、だめなのでこうしようという話をしたら、何でそうなるんやという話がたくさんあるんです。要は、業界の人間であるとか、さっき工務店の話も出ましたけれどもというよりも、やっぱり広告主さんの認識がすごく低いんです。

先ほど熊本の話も出ましたけれども、京都もそうなんですけども徹底してますよね。自分たちは京都とかのほうがずっとやりやすいんです。説明するとすっと通るんです。事業主さんが納得していただける。でも、ほかはなかなかそう納得していただけない。

というのは、さっき周知啓発を徹底している、だけど、やっぱりその辺が事業主さんにはまだまだ甘いんじゃないかなというような気がしたので、その辺に力を入れてもらったほうがいいのかなと、そんな気がします。

○横山委員       私自身はその周知徹底するところを業界団体さんだけに周知するのではなくて、もうちょっと門戸を広げるとか、もちろん取り締まりの強化というのは重要だという認識がすごく高いですし、やっていかなきゃいけないということはあるんですけど、具体的に1個ずつやっぱり潰していかなあかんというところで、それ以外のところ、例えば建築の確認申請が出てきたときに、ちゃんと周知したのにもかかわらずそういう広告が上がっていると、それは撤去させるとか、何かそういうふうなことを工務店も、広告主さんも認知できるような何か仕組みがプラスアルファされると、より促進されるかなと。決まりもあって、周知もするというのをもうちょっと効率的にいろんな業界団体さんだけではなくて、やる必要があるんじゃないかなというのが1つと。

すみません、あと、わかりやすさというのは、先ほどもわかりやすさと出てたんですけども、この資料2におきまして、電柱の広告ですとか、こっちのバナー広告のところで、歩道上にあつては地上から2.5メートル以下はだめですよと書いてあるんですが、実は歩道のついてない道路にこんな立っているところはたくさんあると思うんです。そしたら、そこは何なのというのもちろん書いてやらないと、そこに知らなくて違反が出てくるということもあるので、こういうものって明記される方がいいんじゃないかなというふうに。知ってる人は知ってるんですけど、車道の場合は4.5メートルよりも下はあかんでというのは知ってるんですけど、なかなかわからないので、実はそういう明記の仕方も必要かなとちょっと思ったりしました。

以上です。

○久会長       後半、どうでしょう。具体的に言うと、これ、この書きぶりしかなかなか難しいん違うかなと思うんですけど。歩車の分離がないところはもう車道扱いになるので、ということになっちゃいますよね。パンフレットではそれを明記しますか。

○横山委員       皆さん、歩道と車道って分離されている認識はあまりないとかというのが一般的なんじゃないかな。バナー広告をつくるのは、大体商店街さんのところがつくられるので、それで全然わからないという可能性が高いなという。すみません。

○都市景観室主幹（室谷）       今回のバナー広告の適用につきましては、基本的にはまず、道路管理者との協議の中でこれを掲出していくと。その基準を守ることに関しましては、その掲出者、道路管理者との協議の中でその説明ということで、一般的な方々を対象に適用するような広告ではないのかなとは思いますが、ただ、先ほ

どもおっしゃられたようにそのパンフレットの中でこの基準というのがわかりやすいような表現というのは、もしかしたらできるのかなと思いますので、そこら辺は一度工夫してみるというのもあるかなとは思いますが。

○久会長            よろしいでしょうか。先ほど、前半の部分ですけれども、広告物の業界の組合さんには、当然いろんなアクションを起こされていると思うんですけど、広告主のほうの組合もありますよね。そこへは今までは啓発活動をされているんでしょうか。例えば、銀行協会とか、不動産業の協会とか。

○都市景観室主幹（室谷）            これまで堺市、本市のほうでは、広告主の組合さんのほうにこういう形で啓発ということはしておりません。

○久会長            だから、そこを付加していただくだけでも、少し効果は高くなってくかなというふうに思いますので、割合的にどの業界が多いのかというのは大体わかりますよね。その組合にお願いするということもあります。

私は15年ほど前になりますが、兵庫県で基準の改正をさせてもらったときは、まずは銀行業のところに行かせていただいて、説明させていただいた経験もございますので。それから、一部地域ではやっぱり不動産業の組合ですね、そこでいろいろお話をさせていただいて、かなり改善したという事例もございますので、そこをちょっとまた広告主のほうの組合、そこも徹底的にやっていただいたり、あるいはきょうは藤原委員が来られていますので、商工会議所でもそういう勉強会とか、啓発活動をさせていただくというのも一つの手かなというふうに思います。

○藤本委員            私も同じような話が重なるかもしれないんですけども、やはり私も屋外広告物関係の業界をお手伝いさせていただいている中で、やはり一般市民の方が屋外広告物に届け出が要るということをご存じない場合も随分多いんです。今、業界団体さんが課題にしているのは、ほったらかしにされることで雨とか風とか、落ちたり飛んだり危険を伴うことが発生してきているということで、非常に課題にされてきています。このあたりは本当に商工会議所さんとか事業者側の責任が問われるよということを、ただ余り危機感をあおるようで申しわけないですけども、そういう言い方も効果を上げるのではないかなというふうに思いました。ぜひ、9月のときのそういう旬間を通じて、一つ一つかと思しますので、取り締まりはなかなかここを取り締まられて、こっち何で許してるねんやという話になるので、人海戦術になりかねないです。どうしてもやっぱり市民の意識を上げるということと、業界の事業者の意識を少しそういう危険性を伝えながら上げていくということをさらに頑張っていただけたらなというふうに思います。

以上です。

○久会長       ありがとうございます。せっかくの機会ですので、少し内容からはそれま  
すけども、先ほど池崎委員のほうからも地域団体もさまざまな掲出物を出しているの  
で、そのあたりはやっぱり注意しながら出さないといけないよねというお話がございま  
したけれど、きょうは市会議員の先生も2人来られてますけれども、先生方の市政相談の  
看板というのも案外量的に多いんです。私、とても気になってまして、あれは適用除外の  
物件ですので、なかなかいろんなところに出せるんです、出せるからたくさん出てくる  
んです。そこら辺はちょっと市会の中でももう少し適正の規模、適正の量の掲出にしよ  
うよなんていうことを言っていただくと非常にありがたいなというふうに思いますけれ  
ども。

はい、どうぞ。

○田中委員       市会議員の場合、看板が後援会と本人の議員事務所ということで12枚  
というふうに決まっているんです。よく見られてるのは多分、政党関係の方の国会議員  
等々と一緒に2組でなつての看板だと思うんです。だから、それは政党の政治活動とし  
ての広告というのがありまして、それも公職選挙法が規定をしているんですけども、そ  
の公職選挙法の非常に何と申しますか、ざるの底を破って繁殖しているということが実  
態だと思いますので、私たちも気をつけてますけども、ぜひそういうことをお見かけし  
たら、当該の市議会とか、あるいは選挙管理委員会のほうに言っていただければ受けと  
めるプレッシャーにもなっていると思いますので、よろしく願いしたいと思います。

○久会長       私も含めて皆様よろしくお願いします。ちょっとこの先生の看板多いなと  
思ったら。

はい、どうぞ。

○高木委員       今の看板の件とか、ちょっと大変耳が痛いようなお話でしたけれども、  
そういった件、今、田中委員のほうがおっしゃったように、いろいろなご意見をいただ  
きながら検討していきたいというふうに思っています。

一つ、これが今の議題に適応するかどうかちょっとあれなんですけど、先ほど地域の  
ほうで、例えばひたくり注意とかそういったものを掲げるということがどうなのかと  
かいうお話が少し出てきたかと思います。私のいる地域でも実は、子供が登って命の危  
険があるようなちょっと特殊なところなんですけど、そこに登るなとか、注意とか、そ  
ういう注意喚起のそういった物を地域で掲げるのが景観上いいのか、危険だから掲げな  
いと危険だからとかいう、そういうのが議論がちょっとあったんです。結果的に今まだ  
掲げられていない状態なんです。私、今回初めてこの審議会のほうに参加させていただ  
いて、まちの景観とそういった注意喚起というその辺のことをどういうふうに考えてい

ったらいいのか、またちょっと皆さんのご意見なんかも今後聞いていきたいなと思っています。

以上です。

○久会長           はい、どうぞ。

○藤本委員           その件ですけれども、私は掲げるのがいいか悪いかというのは、そのケース・バイ・ケースだと思うんです。やっぱりその地域でディスカッションされることが最も重要だと思うんです。ディスカッションの過程であそこはああいうふうに危ないんだということが広がっていったり、こう掲げることはやっぱり地域の景観上よくないよねってということがみんなに伝わることで、皆さんもそれぞれが気をつけられるようになると思うんです。私も屋外広告物のお話をするときによく紹介する堺市さんの一つの事例があるんですけれども、交差点で不動産屋さんがいっぱい看板を出している上のほうに子供の飛び出し注意というのが、地域はそう思って出されたので、どっちが早いかわかりませんけれども、出されたものについて責任をとるということも必要かと思うんです。出すのは出されるんですけれども、下げたり片づけたり、要らなくなったときにのけるということをはばされない場合が多くて、出したはいいけれども、それが役に立ってないとなればやはり移動するとか、下げるということも地域ではすごく重要なことだと思いますので、ぜひ出した場合は、それをメンテナンスするとか、下げるということも考えて出していただけたらなというふうにいつも思います。

以上です。

○池崎委員           当然考えて出してるんです。先ほどの議論ではないですけど、出していい悪いというのは、結論は出ないと思うんです。今おっしゃられたように、そのためにまちの景観も含めて、いわゆる一つのその景観も含めた中で出そう、あるいはこういう方式で出そうということが大事じゃないかなということを行ったわけで、出していいか悪いかということではないと私は思っているんです。当然、人の思いとか人の実践と行動によって、いろいろ看板を上げるのが目的ではなくて、実践と行動をするための一つの自分たちの発信ですよ。気持ちの発信としてそういうものを上げるわけですから、僕らが特に気になるのは犬のふん害があった、そうすると犬のふん害広告をあちこちに張り出すと、余りよくないかなと思ったり、だからそのあたりについては、うまく今回こういう会に参加させていただいたので、地域の景観ということも片一方で十分配慮しながら、いわゆるそういった啓発看板をうまく活用して、地域活動というのは進めていけたらいいのになということ、先ほどは意見を言わせていただきました。

撤去については、田中先生からもいろいろあったとおりでと思うんですけれども、地域

ではお役に立たないかわかりませんが、年に何回か行政の方と一緒に一生懸命掃除は実はしているんです。ますます今回、こういう機会に出席させていただいたという形で、やっぱり市民全体にこういった気持ちが盛り上がり、行政と一緒にやってそれに組み込んでいこうという、こういう意識が必ず堺のまちをよくするというふうに思いますし、特に仁徳天皇陵の周辺については、私らも非常にいつもいろんなお客さんを案内してきて、ここは何でしょうかと。ここが大仙陵、仁徳天皇陵ですと言って、これですかと。何というか、半分いわゆるいい意味で驚き、半分悪い意味で驚きということが多いので、ぜひともその環境、これはもう大きく行政と一緒にしないで取り組めませんが、やっぱり住民のそういう思いというのをしっかりと皆さんに発信していけたらなというふうに思ってます。たまたま自治会の代表で出ていけということで出させていたでいますので、また皆さんに訴えていきたいなというふうに思ってます。

以上です。

○久会長       ありがとうございます。ちょうど池崎委員のほうから次の話題に振っていただいておりますけれども、資料の2、周辺のお話はたくさんいただきましたけれども、内容的にはとりあえず今日の案でよろしゅうございますでしょうか。

それでは続きまして、資料の3-1、3-2でございます。先ほどもお話がございました仁徳御陵さんの周辺の制限の話なんですけれども、先ほどご説明にもありましたように、1ページ、2ページ、特に2ページですね。これは建物のほうの話ですので、都市計画審議会と景観審議会のほうで、これは議論をさせていただくというようになります。我々の分担は、この3ページのところの屋外広告物の制限の内容ということがメインになっております。1ページ、2ページに触れるなということではございませんけれども、メインは3ページの内容ということで議論をさせていただきたいなというふうに思います。

いかがでしょう、ご質問でもご意見でも結構ですが。

ここは三国ヶ丘の駅前の繁華な場所というところが一部含まれておりますので、そのあたりの広告物のあり方というのは、かなりいろんなもののバランスの中で考えざるを得ないところでもあります。今回の場合は、まず大きく今までとは違うのは、いわゆる屋上広告物を全てのところから撤去するというような内容にはなっております。

いかがでございましょう。内容的にはよろしいでしょうか。

それでは、これはまたさまざまところで、地元も含めて意見を聞きながら、最終的にはまたもう一度振り返りをして、パブリックコメントを掛けて諮問答申という手続になりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。



それでは、引き続きまして資料の4番でございますが、広告物の誘導地区の指定の考え方。まず、第1号で百舌鳥古墳群緩衝地帯ということで、仁徳天皇陵の周辺を第1号にしたいということですがけれども、その後、その地域、地区に応じましてどんどんこの誘導地区を増やしていきたいというようなことになっていこうかと思えますけれども、何かこの内容に関しましてご質問、ご意見ございますでしょうか。

私がお手伝いしているところと言うと、兵庫県はもう既に、兵庫県は多分、日本で第1号かもしれませんけれども、こういうモデル地区を指定して、徹底的にその広告物をよくしていこうというようなことをやっております、兵庫県の場合は、これも10数年前になりますけど、第1号は出石が誘導地区として第1号をとっていただいて、歴史的なまちなみを合わせた広告物を誘導していただくというようなところから始まりました。先ほどから池崎委員も地域のお話をさせていただいてますけれども、この地域から手を挙げていただいて、うちの地域もっと景観をよくしたいねということでは、誘導地区に指定してくださいというようなことを連携しながらもできるようなシステムになっていくと思います。

はい、どうぞ。

○横山委員        この資料4、歴史的な景観を市とつくっていく上で、その屋外広告物のあり方というふうに資料4、もしくはその少し前の資料3なんかを見たときに、夜の明かりというか、屋外広告物の明かりってどう位置付けるのかなみたいなのも考えなあかんとなすごい思ってます、特に歴史的景観と、それとか緑豊かなという流れの中で多分、景観形成をするレベルで明かりのあり方というのは景観審議会のほうでご議論されるかと思うんですけど、我々屋外広告物の中で、そこは日常の昼間の色の制限以上に明かりの制限というのを少し考えるほうが、夜も楽しめるまちやったら泊ってみよかなみたいなのを誘発できるようなことも考えられるんじゃないかなというふうに思っていたりするので、またそれもきちっと議論ができるような形ができればと思っています。

○久会長        今は技術が非常に進歩をしまして、さまざまな今までなかったようなタイプの広告物が掲出できるようになってますので、その光だけではなくて、動く広告というのも今は出てきておりますので、そのあたり新しい基準に対応した基準づくりというのも、後手後手に今回なっている状態だと思いますので、そこら辺もまた検討していただけたらということだと思いますが。

○都市計画部長（坂元）        横山委員のご指摘はそのとおりだと思います。ネオンなど照明のその装置というのは、屋外広告物、光の演出などによって、商業地域などにおき

ましては、やはりにぎわいや活力ということで、いいものがあると思われます。一般市街地におきましても、夜間の通りの景観創出とか安全安心の一助になるというような効果もあると思います。ただ一方で、ご指摘のように掲出場所やその方向、光の点滅、位置によっては、生活環境、それから歴史環境、こういったものに及ぼす影響がございますので、そういう光、ネオン等を用いた広告物のあり方については、全国的な事例も含めまして、今後はやはり検討していく一つの材料ということでご理解いただければと思います。

以上でございます。

○久会長 貴重な問題提起でございますので、また、さまざまな新たな広告媒体も含めて、少し時間をかけて検討させていただければというように思います。ありがとうございます。

はい、どうぞ。

○藤本委員 世界文化遺産のところは、ちょっとハードルが高いので意見を申さなかったんですけれども、今、どこの自治体もこの課題を抱えています。特にやはり動く、光って動く物が高い位置に来ると、屋上広告がなくなったにしても、かなり広域に影響を及ぼしますので、そのあたりは将来的にはぜひ検討していただけたらなというふうに思います。ポールで上で、よくパチンコ屋さんなんかでありますけれども、動く物に関しては、あとは内照型でもかなり明るい物、これについても今は大阪府なんかでは、ちょっと照度を検討するとかという動きが出てきてますので、そのあたりの情報も入れながら、今後の課題にさせていただけたらと思います。

○久会長 はい、ありがとうございます。いかがでしょう。資料の4の広告物誘導地区の内容に関しまして、何かご質問、ご意見、ほかにございますでしょうか。今のところ第1号は百舌鳥古墳群のバッファゾーンということになってますけれども、第2号、第3号は何か腹案はございませんでしょうか。今後、検討ということであればそれでもいいんですけど。

○都市景観室長（休場） まずはこの第1号のところの屋外広告物の今回新たな規制をしますので、ここは積極的に取り組むところだと思ってますが、基本的にはやはり景観計画で位置付けている重点景観形成地域というところをベースとして、特にまたそういった特異な地域があって、地元の声とかも聞きながら、そこは柔軟に検討していきたいなと思っています。

○都市計画部長（坂元） 特に今、室長が申しました景観計画では、百舌鳥古墳群だけではなく、今後、環濠地域については市街地形成しているその許可基準以外にも、こ

の特色に応じた取り扱いというのは非常に重要だと考えております。

そうした意味で、広告誘導地区については、次の段階では会長がおっしゃるように候補として考えていきたいという姿勢で、地元も大分、北部地域で動いていただいておりますので、行政ともども自治会さんにもいろいろご協力のもと、協議会を進めていく中で考えていきたいという候補としては考えております。

以上です。

○久会長        はい、ありがとうございます。

ちょっと私、なぜそれを前ふりをさせていただいたかということ、恐らくこの地区指定というのは2つのタイプがあろうかなと考えているんです。1つは、先ほどの環濠地域もそうですが、この百舌鳥古墳群周辺もそうですが、堺東の駅前も私はその一つじゃないかなと思っているんですけれども、やっぱりその堺市にとって非常に重要な地区というのがあります。これはその地元の意見以上に、やはり市がリーダーシップを持って頑張っていただくというようなタイプが1つです。

もう一方で、今度はその地域の方々の盛り上がりによって、うちの地域はより景観も広告物も含めて景観をよくしていきたいという機運が醸成されてこの地区指定に持っていくというタイプと、少しそのルートとか内容が違うと思うんです。ですので、前者のほうは市が率先していろいろ仕掛けをしていかないといけないんですけれども、一方で先ほどらい、池崎委員も中心に言っているような、やっぱり市民の盛り上がりの中で、うちの地区ぜひともこの誘導地区にしてほしいというような声が幾つも上がってくるような、そういう取り組みも並行してやっていただくことによって、どんどんどんどんその堺の広告物景観がよくなっていくというように思いますので、それを両輪で動かしていただければうれしいなというふうに思います。

はい、どうぞ。

○田中委員        今の会長のお話は非常に重要なお話だと思っているんです。それで、これからの取り組みになりましたら、結局27年の段階で、条例改正を議会のほうに手渡していくという流れだと思うんですけれども、これは11月の審議会を経て、パブリックコメント、それと地元説明会ということがありますけれども、特にパブリックコメントで一つ大きな問題がございまして、堺市がやるパブリックコメントもひどいときは7件とか10件とか、二桁とか、そういう意見聴取しかできてきてないという実態があるんです。これはほかの自治体でもそうかわかりませんが、周知をどのようにして図るか、周知を図ることによって、市の案に対して意見をもらうかいただくかと。だから、いうことを考えた場合、パブリックコメントがもう一桁、二桁の意見しか上がってこないと

ということで、そもそも市民に対しての問題のあり方の段階で、どこか何かが大きく欠落しているんじゃないかなというふうな、そんなジレンマを感じながら行政の皆さんとはやりとりをさせていただいておるんですけども、そこをどう考えるかというのが一つの市が頑張ることと、もう一つは地元が盛り上がるということからヒントを得れば、かなり随分、市も積極的に問題の投げかけをしていただくと。

市民参画の時代に入ってますから、そんな中で地元の盛り上がりもあって、それがまたもう一度地元の周知徹底になっていくということですので、ここはもちろん、私のほうも何かいい事例がございましたら、ご紹介いただけたら参考にさせていただけると思います。

○久会長        私がいつも市民の皆さんにお願いをしてるのは、実は違う意味でお願いをしてまして、パブリックコメントというのは、何かその基準とか内容に異議があるときに出すものだというような誤解があるんです。そうではなくて、賛同するほうのもパブリックコメントなので、頑張ってくださいとか、この意見で、この内容で結構ですというのを出してほしいんです。そうしませんと、そのたくさんの異議ばかりが出てきたときに、その内容がおかしいというようなことになってしまいますので、それが本当にその市民全体の意見なのかということがわからなくなってしまうわけです。ですので、今回もそうだと思いますけれども、賛同している、異議ございませんというパブリックコメントもぜひ出していただきたいなというように思いますし、先ほどの説明会の中でも頑張ろう、頑張ってくださいという意見もありましたので、こういうものをうまくパブリックコメントですくい上げていくということも一つの手かなというように思いますし、さらに言えば、説明会をきちんとして、そこで意見がありましたら必ずそのパブリックコメントに出してくださいというようにお願いをする。さらに突っ込んで言えば、その今回出していただいたようなこの説明会のときにいただいた意見もパブリックコメントとして取り上げるというような手もあると思うんです。そういうことを幾つか組み合わせていけば、場合によったら100件を超すパブリックコメントだというような形にすることも可能かと思えますけれども。

ほか、いかがでしょうか。どうぞ。

○横山委員        ちょっと流れとは違う話かもしれないんですけど、屋外広告物を取り扱うということで、常に気にかけておいてほしいのは、最近よく出てきている白地の看板。看板をおろした後の真っ白に塗っている看板のある景観ですとか、フレームだけが残っている屋上の状況というのは、やっぱり景観というレベルで行くと、あんなみすばらしい物はないんと違うかというぐらい並んでいるところもあったりするので、そこら

を含めて屋外広告物をご担当される方が一定ルールを決めて、何かそれに対する対応をしていくというようなことを明確化されるほうが、看板がついてなくても汚いという状況が今、出てきてますから、それもぜひご検討いただければと思いますので付け加えます。

○久会長           はい、ありがとうございます。

事前にちょっと事務局の方とご相談をさせていただいたときに、その問題も出されまして、これもちょうと2つに分けて考えたほうがいいんじゃないですかという話をさせていただきました。2つというのはどういうことかと言いますと、百舌鳥古墳群の周辺の場合は、もう屋上広告物を認めないという方向が出てますので、その広告物そのものを撤去した後の土台、これはもう機能上必要ないわけですから、それだけ残すというのは、これはちょっと認められないんじゃないかと。それは機能上意味をなしてないわけですから、それは撤去していただくというようなことで行けるんじゃないかと。ただ、今ちょっとその経済的な不況で、今は掲出されてないんだけれども、また10年後、景気が変わってきたときに掲出をされるというような土台は、これは今付いてないから撤去しなさいというのは、ちょっとなかなか言いづらいなというようなことです。ただ、横山委員がおっしゃるように、鉄骨むき出しというのは、やっぱりちょっと具合が悪いので、そのあたり景観上、何か配慮していただけるような、そんな工夫をしていただくというのは一つ考えられると思いますけれども、少しそのあたりは地区指定をしている部分とそうでない部分というのは、少しやり方というのを変えながら、状況のほうでも対応していただければというふうに思いますけども。

それじゃ、今のご意見もそうでしたけれども、全体的に屋外広告物に関しまして何かご意見等がございましたら、せっかくの機会ですので、いかがでございましょうか。

どうぞ。

○川邊委員           今のちょっと話に類似するんですけど、その撤去を促す場合に、行政からの補助とか援助とかいうふうな考え方は含まれているんでしょうかというのが質問です。

○都市景観室長（休場）           今現在、この基準を考えている中では、補助の部分についてはこれと合わせてというのは考えてございません。ただ、全国的な流れの中でいろいろそういった事例もありますので、そういったところはいろいろその状況であるとか、効果を確認しながら堺市でもそういうことができるのかどうかも含めて、研究はしていきたいなとは思っています。

○川邊委員           それも、例えばどこか屋上の場合、その鉄骨の持ち主が、家主さんであ

る場合と広告を出しているオーナーさんの場合がございまして、オーナーさんの場合でしたら、結局、撤去してくれと言え、そこが負担していただけるんですけど、そのビルの持ち主になりますと、その費用が出ないから、鉄骨だけに置いとってくれという状態になるんです。それを撤去するとなると、当然、そのビルのオーナーさんの全額負担ということになってくるので、それはできないということで、錆びたままで放ったらかして汚い状態になってる看板は結構あるんです。その辺も絶対補助というのは、ある程度必要なんじゃないかなというのは感じます。

○久会長        なかなかそのあたりは難しくて、補助を出すということになったら、全ての物件に補助を出すということになりますよね。そこでその予算がどれだけになるかというところもあるので、そのあたりも慎重に考えていく必要はあるのかなと思います。

      ちょっと補助の話が出ましたので、これはなかなかどこに向かって発言したらいいかというのは難しい話なんです、実は私がかかわっているところで言うと、奈良市の大宮通りというのがございまして。平城旧跡のすぐ南側の道路なんです、2010年に平城京遷都の1300年祭をやりました。そのときに景観をよくしていこうということで、広告物の基準をつくり、それに合わせてくださいということでお願いをしてきました。それは奈良県もその看板を変えることへの補助金を出そうということで進めましたところ、かなり看板が変わったんです。県の担当の方に、周知徹底されたんですかって言ったら、いやいや私たちはやってませんと言うんですね。じゃあ、何でこれだけ変わったんですかと言うと、その広告物業の方々がオーナーさんに今、建て替えたなら補助出ますよという形でお勧めをされたらしいんです。それでどんどん作り替えられたという、そういうエピソードがございまして。そういう意味では、百舌鳥古墳群の場合は、世界遺産へ登録するということでもございまして、やはりこの財政難の折から、何でもかんでも金を使わないという話になっちゃうんですが、効果的なお金はぜひとも使っていて、どんどん景観がよくなるようにしていただくというのも一つの手かなというように思っております。恐らく、都市整備のほうはそれは考えてらっしゃると思うんですけども、財政のほうはなかなか新しいお金を出すというのは渋るというところもございまして、だから、そういう意味でどこに言ったらいいのか難しいですねという話をさせていただいたんですけれども、せっかく世界遺産まで頑張っているわけですから、使うところは使っていていただくというのも一つの考え方かなというふうには思っております。

      そういう中で言いますと、先ほども川邊委員がおっしゃったような撤去も含めたいろんな補助金が使えようになるのではないかなというふうに思いますが。

いろんなところで皆さん、発言する機会がございましたら、そのあたり応援演説もお願いしたいなというように思います。

ほかいかがでしょうか。この機会ですので。よろしゅうございますか。

それでは、今回の案件は全て報告事項ということで、まずは第1ラウンドで委員の皆さんにご意見を賜るということでございましたので、また、今日の意見も踏まえまして、また、次回さらにいい内容にしてお示しをいただき、また、意見交換をさせていただければというように思います。

それでは、以上をもちまして、本日の予定案件全て終了いたしました。

それでは、これをもちまして、本日の審議会を終了させていただきたいと思います。

あと、事務局のほうにお返ししますので、よろしくお願いします。

○司会（室谷）            本日は、長時間熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。

次回開催につきましては、11月ごろを予定しております。後日、調整をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

（午後3時38分閉会）